

**平成30年度 愛知県高等学校新人体育大会 柔道競技
兼 第41回 全国高等学校柔道選手権大会 県予選
実 施 要 項**

- 1 主催 愛知県高等学校体育連盟
- 2 共催 愛知県教育委員会
- 3 後援 愛知体育協会 愛知県柔道連盟
- 4 期日 平成31年1月12日(土) 10:00～ 男子団体・女子個人
平成31年1月26日(土) 10:00～ 女子団体・男子個人
- 5 会場 愛知県武道館 第1競技場
名古屋市港区丸池町1-1-4
- 6 参加費 個人戦、団体戦ともに1名700円(試合当日の受付で支払うこと)
※ 個人戦、団体戦の両方に出場する場合でも、それぞれで参加費を支払うこと
- 7 申し込み先・期日
男子団体、女子団体はそれぞれ1部ずつ所定の申し込み用紙で各支部長に申し込むこと。
(愛知県高体連のホームページの用紙を利用すること)

男女団体戦の申込〆切日は以下の通りである。

名 北	杉原大一郎(名古屋西高校)	11/6 締め切り
名 南	松下泰夫(名城大附属高校)	11/13 締め切り
尾 張	羽生裕司(滝高校)	10/30 締め切り
知 多	伊東朝樹(半田高校)	11/13 締め切り
西三河	竹市慈俊(愛産大三河高校)	10/19 締め切り
東三河	笹瀬貴司(豊橋南高校)	10/19 締め切り

男女個人戦の申込〆切日は全支部統一して、11/22(木)必着で各支部長に申し込むこと。

※ 男女個人戦の申込は愛知県高体連のホームページに掲載される個人戦用シートに必要事項を入力し、各支部長宛にメールで申込をすること。また、同様のシートを印刷し、学校印を押したのもも期限までに各支部長まで郵送すること。メールおよび書類の両方が期限内に届かないと、大会には参加できない。

- 8 参加資格
 - (1) 学校教育法第1条に規定する高等学校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍する生徒。
上記以外の学校の参加については、愛知県高等学校体育連盟の内規に準ずる。
 - (2) 愛知県高等学校体育連盟加盟校の生徒であり、全日本柔道連盟の競技者登録をしている者。
 - (3) 学校長の出場許可のある者。
 - (4) 平成12年4月2日以降に生まれた者、ただし、同一学年の出場は1回限りとする。
 - (5) チーム編成において、全日制・定時制・通信制課程の生徒による混合は認めない。
 - (6) 外国人留学生の参加については愛知県高等学校体育連盟の内規に準ずる。
 - (7) 転校後の参加については、転校後6ヶ月を経過していること。ただし、一家転住等の理由によりやむを得ない場合は、高体連柔道部長の許可があれば、この限りではない。
- 9 男子団体戦
 - (1) チーム編成
 - ① チームは監督1名、選手6名の計7名をもって編成し、1校1チームとする。ただし、県大会については選手2名以上で参加可能であるが、5名未満の場合は全国大会には出場できない
 - ② 登録選手の入替は選手変更届(校長印の捺印してある所定の申し込み用紙)で1名のみ入れ替えができる。9:00～9:40までに選手変更受付に提出すること。
 - (2) 試合方法
 - ① 各支部予選を勝ち抜いた36校による学校対抗の勝ち抜きトーナメント戦とする。
 - ② 各支部からの出場枠は以下の通りとする。

名北 4校 名南 8校 尾張 8校 知多 4校 西三河 7校 東三河 5校

③ 選手5名のオーダーは試合ごとに変更可とし、試合ごとに本部にオーダー表を提出すること。

(3) 試合規定

① 試合は国際柔道連盟試合審判規定2018によって行う。

背中のゼッケンは必ず着用すること。柔道着については新規定(赤枠の IJF ラベル、赤色の認証番号)のものとする。ただし、帯については旧規定(青枠の IJF ラベル、黒色の認証番号)も可とする。

② 試合時間は3分とする。ただし、決勝戦のみ4分とする。

③ 判定基準は、「技有」または「僅差」以上とする。

※「僅差」とは技によるスコアが無い場合、または同等の場合に、「指導」差が2以上ある場合を僅差による優勢勝ちとする。「指導」の差が1であれば、引き分けとする。

④ 大将戦において引き分けた場合は代表戦を行う。3 分間の試合の中で、技によるスコアが同等で指導差2も無い場合は時間無制限のゴールデンスコアを適用する。代表戦出場者は監督が任意で選出する。

10 女子団体戦

(1) チーム編成

① チームは監督1名、選手3名、補欠2名の計6名をもって編成し、1校1チームとする。ただし、**県大会は選手2名以上で参加可能であるが、3名未満の場合は全国大会には出場できない。**

② 先鋒は 52kg 以下、中堅は 63kg 以下、大将は無差別とする。

③ 登録選手の入替は選手変更届(校長印の捺印してある所定の申し込み用紙)で1名のみ入れ替えができる。9:00～9:40 までに選手変更受付に提出すること。ただし、必ず補欠を優先的に充当する。例外的に、次のような場合は認められる(全国大会基準)。補欠に 52kg 以下の選手を登録していない状態で、先鋒(52kg 以下)を抹消する場合、及び補欠に 63kg 以下の選手を登録していない状態で、中堅(63kg 以下)を抹消する場合は、新たに登録する選手を直接、先鋒あるいは中堅に入れることができる。

(2) 試合方法

① 各支部予選に参加した学校対抗の点取りトーナメント戦とする。(ただし、エントリーをしていたが、やむをえない事情により支部予選を欠場した場合でも県大会には参加可とする)

② オーダーは固定とする。

③ 補欠との入れ替えは、試合開始前までに会場係に申し出ること。ただし、一度補欠を入れた場合、再度入れ替えることはできない。

(3) 試合規定

① 試合は国際柔道連盟試合審判規定2018によって行う。

背中のゼッケンは必ず着用すること。柔道着については新規定(赤枠の IJF ラベル、赤色の認証番号)のものとする。ただし、帯については旧規定(青枠の IJF ラベル、黒色の認証番号)も可とする。

※黒帯については、白線入りと白線なしどちらも可とする。

② 試合時間は3分とする。ただし、決勝戦のみ4分とする。

③ 判定基準は、「技あり」または「僅差」以上とする。

※「僅差」とは技によるスコアが無い場合、または同等の場合に、「指導」差が 2 以上ある場合を僅差による優勢勝ちとする。「指導」の差が1であれば、引き分けとする。

④ 勝ち数が同じ場合、一本勝ちの多い方が勝ちとする。一本の数が同じ場合は「技あり」の数の順で勝敗を決める。内容も同じ場合は、代表戦を行う。

⑤ **代表戦は、引き分け対戦の中から抽選で選び、最初からゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。代表戦の優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「指導1」以上とする。なお、引き分け対戦がない場合は、両者反則負けなどで勝敗がつかなかった対戦を代表戦とする。また、両チームが2名しかおらず、引き分け対戦がない場合などは、代表選手を全ての対戦の中から抽選で選出し、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。**

11 体重別個人戦

(1) 体重区分

① 男子 60kg 66kg 73kg 81kg 無差別

② 女子 48kg 52kg 57kg 63kg 無差別

(2) 出場枠

① 男子

60kg 級、66kg 級、73 kg 級、81kg 級は各階級2名までとする。無差別は3名までとする。ただし、尾張・名古屋・知多新人体重別大会でベスト8以上または全三河体重別大会でベスト4以上に進出した選手の学校には、さらに該当する階級に1名追加することができる。

※ 60kg～81kg 級は最大3名、無差別は最大4名までとなる。

- ② 女子
参加制限なし
- (3) 計量
 - ① 9:00～9:40 の間に行う。時間内なら何度でも計量できる。
 - ② 計量を行わなかった選手および計量をパスしなかった選手は失格となる。
- (4) 試合方法
 - ① 体重別(5階級)の個人試合とする。
 - ② 試合はトーナメント戦とし、3位決定戦を実施する。
- (5) 試合規定
 - ① 試合は国際柔道連盟試合審判規定2018によって行う。
背中のゼッケンは必ず着用すること。柔道着については新規定(赤枠のIJFラベル、赤色の認証番号)のものとする。ただし、帯については旧規定(青枠のIJFラベル、黒色の認証番号)も可とする。
※女子の黒帯については、白線入りと白線なしどちらも可とする。
 - ② 試合時間は3分とする。
 - ③ 勝敗の決定は以下の通りに行う。
 - ④ 技によるポイントのみがスコアとなり、最後にスコアが上の方が勝ちとなる。技のスコアが同等の場合は、準々決勝まで及び3位決定戦では指導の少ない方が勝者となる。指導差も無い場合は旗判定により勝敗を決する(旧ルールと同様)。準決勝および決勝は、技のスコアが同等の場合、指導差2の場合は僅差勝ちとなる。指導差が1以下の場合には時間無制限のゴールデンスコアを適用する。ゴールデンスコアでは、最初に技によるスコアを得た選手が勝者となる。または、「指導」の数が多くなった選手が敗者となる。

12 その他

- (1) 審判については団体戦、個人戦ともに従来通りの4審制(主審1名、副審2名、 Jury 1名)で全て実施し、ケアシステムを使用する。
- (2) 男女団体戦の優勝校および男女個人戦の優勝者は全国大会への出場権を得る。
- (3) 大会参加に際しては、監督あるいは顧問(引率教諭)の付き添いを要する。
- (4) 申し込みならびに計量等で不正が生じた場合、チーム全体の出場を認めない等のペナルティーを科すことがある。